

子山ホーム だより

第95号



小4 M・Kくん
作品名
かわいいひまわり
工夫
ひまわりのまわりにとんぼをかいだよ



小4 H・Kさん
10歳のお誕生日をお迎えました！
トマト好きなので
トマトタワーにしましたが、
来年もっと大きくできるように
頑張ります！！
保育士 羽賀有紀



2024(令和6)年度 生活支援基本計画(園長指針) 吉田正浩

令和6年度は、定員13名の削減・1ホームの削減で今までの子山ホーム定員61名から本施設42名へ(内1ホーム分園型小規模グループケア)と地域小規模児童養護施設6名(1ホーム)で、計8ホーム48名の定員に大きく変更してのスタートとなります。

本施設も男女混合5ホームと男子ホームが1ホームから、混合ホーム3ホーム・男子ホーム2ホーム、女子ホーム1ホームとその運営方法も大きく変化します。私たち職員は全員が、何故、この様な大きな変化に至ったのかを念頭に置いて、具体的に昨年度の様な案件を二度と出さない様に心掛けていく事、そのために常に話し合いを大切にして「課題を共有」していくことが求められます。そして今まで以上に良い養育(ケア)に取り組みという意識を持ち、今一度0(ゼロ)から子ども達と安心・安全な暮らしと一緒に作り上げていく覚悟でこの一年間を臨む使命があると思います。

しかし、これらの大きな課題があるからと言って戦々恐々とするのではなく、むしろ私たち職員一人一人が子ども達と共に、楽しく毎を送る意識をもって日々過ごすことが出来たら何よりです。そのうえでチームとして動くこと、話し合うこと、つまり「感謝すること」「信じること」「待つこと」「許すこと」「笑うこと」子山ホームの基本理念に沿った生活を送る努力をしていくことが大切だと思います。

子山ホームで仕事をすると決めた初心に返って、本来の自分らしさの中で生活(仕事)をしていければ、そこに携わる職員、何より主役である子ども達も達の姿に自身がどう変わったのか鏡の様に映ることでしょう。まず変わるの子ども達でも他の職員でもなく、自分自身だということが解ることでしょう。そしてそういう姿勢が子ども達や周りの人達には良い意味でしっかりと伝わっていくことでしょう。皆で、共に頑張っていくましよう。

生活目標

「暮らしの見直し・再点検・より良く暮らせるために」

今まで当たり前前に暮らしてきたやり方を再度、1から見直していきましょう。私たちが入職した頃から教わってきたやり方が果たして、現在も有効なのかをベテランから新任者まで意見を出し合って子山ホームの生活(暮らし)を見直し、点検していきましょう。

具体的には昨年度起こった事故案件を真摯に受け止めること。専門家による子山ホームの生活空間・境界線(バウンダリー)について第三者として客観的なアドバイスを頂き、今改善できることは早急に見直ししていきます。その上でこれまで起こった案件も更に検証して同じことが起こらないためにはどうしていけば良いのかをケース会議やキャリア会議にて検討していきます。また専門家の方にもこの1年間、年に3回の予定でケース会議を共にして頂きます。(この年3回は職員全員参加とします)キャリア会議は、今年度からの新しい試みで、会議を増やすのではなく職員会議の回数を減らし、その分をキャリア会議に充てていきます。キャリア会議は基本的に横の繋がりを重視していきます。より皆の意見が聴けるようにキャリア会議では、必ず自分の意見や感想を1度は言うことをルールとしていきます。活発な意見交換の場となる事を期待しています。

同時に今年度より各職種の代表者だけでなく児童支援方針が作成された後(正確には各職種の目標が出された後)すぐに個別にその目標を読み込み個々の目標の他、いくつかの項目に答えて頂き、それを持って年4回の2者・3者面談で活用して頂き最終的に総括に反映させてもらいたいと考えています。また年3回「職員セルフチェックリスト」および権利擁護の観点から「子どもから見た職員のアンケート」(それぞれ子山ホーム版)を行いその結果については真摯に受け止めて次に生かしていきたいと考えています。

養育目標

「子ども達へより良い養育(ケア)の実践をしていくために」

今までの生活を見直していく中で、私達の職員としての在り方も見直していきます。先ず施設へ入所してくる子ども達の背景を、ケースを通して確認すること、同時に想像する力が大切になります。子山ホーム(施設)に入所して来る子ども達は誰一人として自分から望んで来た子は居ません。家族・家・学校・友達等自分の慣れ親しんでいた全てからいきなり離れて児童相談所で過ごし、その後入所して来るのです。ですから私達は、子ども達が子山ホームに入所してきた日がスタートではなく、子ども達にとってはマイナスからのスタートと踏まえて、子山ホームの養育の柱である「15歳からの養育」「安全委員会方式」を、まずは私達が自分のものとしなければいけないと思います。

「15歳からの養育」については、単純に15歳になったから自分のことは自分でさせていくではなく、私達は、一人一人の子を良く見極めて、その子が今必要としていることや身に付けた方が良いものを丁寧に支援し、その子の育ちを重ねていくことが求められます。また「安全委員会方式」についても私達自らが学び、正しい知識として活用していくことが大切です。

私達が率先して学ぶ姿勢をしっかりと持ち、「子ども達の権利擁護」の観点から、皆で学び直し、子どもの目線も忘れずに、日々の暮らしに生かしたいものです。子ども達に対して、いま自分自身が持っている経験や知識の中で、子ども達に説明責任(アカウンタビリティ)を持って接していくこと、子ども達の疑問や質問に、自分の言葉で説明出来ること。私達自身が自身を大切にしていけること。子ども達や職員に「思いやり」をもって接すること。言葉遣いも然り、これら私達の姿勢に身近な子ども達も必ず気づいていきます。そして幾つになっても大切なことは「素直な心」だと思います。日々の子山ホームでの生活(暮らし)を大切にしていましよう。

3/19

小6・中3行事「歩け、歩け!!」



毎年小学六年生と中学三年生はこの時期になると一つの思い出作りとして、ナイトウォークを計画します。今年も中学三年生である児童が1名と合同での行事を計画しました。今年も茂原まで一緒に散歩をしてラーメンを食べに行こうというタイトルでみんなが思い描く遠足より少しばかり大変な遠足を企画しました。

全ての行程は往復で約60キロです。全員が一気じゃん!一何度と意気込んでいました。しかし、想像するのと実際に取り組んでみるとやはり違ったようで、半分も行かないうちに小学生たちは疲れが見え始めて、足が痛いなど心と体の不調を訴えてきている子どももいました。歩きながら楽しい話をしたり、歩きながらできる口頭のゲームをしたり、思い出話をしたりとなんとなく気持ちをなごめ、ラーメン屋につくと、食事より睡眠!という感じで憔悴してしまいました。しかし、帰りの歩みも歩み出すと若い力はすごいもので、不調は相変わらず訴えてはいる子どももいましたが、なんだかんだで全員が一緒に子山につくことができました。途中声援に来てくださった職員の方にも力をもらい、子どもたちは本当にうれしそでした。きつと彼ら彼女らのアルパムの1ページになった事でしょうと思えます。

最初は最後まで歩ききれぬか不安だったけれど、最後まで歩いてよかった。かんちゃんたちとずっとお話してたからずっついてもいいしラーメンを食べた。帰るとちゅうで足首が痛くなったけどコースで飯を食べたので回復した。最後は走って子山までゴールしました!すんごくつらくて楽しかったです。またやりたいなあ〜!次は1000kmあるきたい!

新高一 C・Kさん

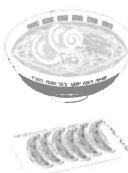
僕は小6行事で60kmを歩きました。最初はよゆうで歩けるかなと思っていたが、40km後はいよいよきつくなっていきなり、だんだんこしもりたくなり大変でした。

僕の良い思い出は、こうらくえんでラーメンを食べたのと、BOBAに行くと、タピオカを飲んだことです。60kmはきつかったけど皆と楽しく歩いて良かったです。

新高一 C・Sくん

行く前には、60kmはよゆうだと思っていたけど、本当に歩いてみると、とてもキツかったです。特に、ラストスパートの20kmぐらいが、一番キツかったです。お昼ごはんは、辛楽苑に行き、ぎょうざを食べ、とてもおいしかったです。楽しかったです。

新高一 R・Hくん



小6行事はひざがいたくなるからいく時は「いたくないように」と思いました。いくとちゅうはひざがいたくてつらかったです。行ききのゴールの時に「あと半分だあ〜」と思いましたが、行きのゴールはもばらのラーメン屋です。ラーメン屋について千円以内でカレールーとアイスを食べました。そのあとは子山におまかせて出発しました。そのスタートのときそのとちゅうでひざがいたくなりました。帰りゴールでゴールした時にうれしかったです。

新高一 R・Sさん

朝5時に出発してコンビニで朝ごはんを食べました。そして歩いてこうらくえんについておひるごはんを食べました。おいしかったです。そこからあるいてここすたああるいて子山につきました。

新高一 Y・Tくん



ゴール!!



おつかれ様♡



児童指導員 菅野穂

3/23

進級会



小学校に入ってお友達に会えるのが楽しみ。勉強頑張る。

新高一 K・Sくん

中学生になったら、頑張りたいことは部活です。柔道部で相手を一本取りたいです。あとは友達を沢山作りたいたいです。

新高一 H・Kさん

進学の意気込みは私は、中学になったら友達をたくさん作ることに作った友達のみんなで遊ぶことです。がんばりたいことは、部活と勉強をがんばりたいです。部活は今のところパソコン部にはいりたいです。パソコン部にはいいたらゲームをつくりたいです。勉強は数学をがんばりたいです。

新高一 R・Sさん

中学校に行ったら、ポニー(硬式野球)を頑張りたいです。楽しみな事は、中チャリ登校です。ルールを守って行きたいです。いちおう、勉強も頑張ります。楽しみです。

新高一 R・Hくん

べんきょうは社会をがんばりたいです。部活はきまってません。中学ではいまよりもっとべんきょうをしてスポーツをしたりしたいです。

新高一 Y・Tくん



中一になって一番楽しみなことは、自転車に乗って登校することです(笑)。中一では、部活(けんどう部)をがんばりたいです。

新高一 C・Sくん

入学したら友達をいっぱいつくってたくさんおしゃべりたいです。勉強は数学を頑張る、美術を頑張る!バイトしたいしゆつせいきをよくして、ていしゆつぶつちやんと出して、じゆぎやうちゅうにねないで、先生にちゃんといさつして内点をよくする!がんばる!とにかくJKを楽しみたいです!あと、あかぬけたい!めざせ!!カワイイJK!!

新高一 C・Kさん



ホーム旅行

あじさいホーム

すみれホーム



あいにくの天気だったので、急遽予定の変更をし、一日目は外食からの温泉宿に宿泊するのみ。二日目は木更津龍宮城とホーリングに行き、温泉に入ってきました。入浴することが多く、全員男の子なので、みんなで一緒にサウナや露天風呂に入ったりと、一緒に行動することが多い旅行となりましたが、とても楽しく過ごせました。絆が深まったと思います。この三月で卒園した子もいますがリベンジとして、夏休みにも今回行く予定だったマザー牧場に一緒に行くことを考えています。

あじさいホーム担当 保育士 杉本裕樹



1日目あいにくの雨でした。水族館や夜ご飯の焼肉を楽しみました。
2日目横浜中華街で食べ歩き！肉まん、パンダまん、小籠包など、何を食べようか、くんとみんなで悩みながら食べました。

すみれホーム担当 保育士 大竹貴博



初日の八景島は雨が降っていたけどイベントもやっていて楽しかった。夕飯の焼肉も最高に美味しかった！ホテルではけいやくと中村さんとゲームをして遊んだ。
2日目は横浜はマリイタワーで最高の景色、中華街で食べ歩きしてみんなといっぱい話せていい思い出になった。ホーム生活最後の旅行で移動中にもみんなと沢山話せて本当に良かったし楽しかった！

旧高3 K・Y



ひよこお別れ遠足



毎年恒例だった幼児さんから小学生へと巣立っていくメンバーとの思い出作りとして行われてきたお出かけでしたが、コロナで何年も行くことが出来ませんでした。今年今夏のお別れ遠足を決行!!
いちご狩りに行ってきました。沢山の種類にみんな驚きながらも、自分の好きな味を探し、沢山の食べ物を頂きました。その後はプラネタリウムや公園で遊んで楽しい1日を過ごしてきました。
フリー保育士 小倉利香

子山ホームに一流ミュージシャンがやってきた!

3月23日子山ホーム進級会。ここで素敵なお別れが催されました。演奏者は、元日本フィルハーモニー交響楽団首席トロンボーン奏者、現在国立音楽大学教授、他音楽大学非常勤講師も務める、日本を代表する「トロンボーン」奏者、岸良開城さん。日本フィル等日本のオーケストラでフリーランスとして活躍されている、バイオリン奏者の路子さん。この春桐朋学園音楽大学音楽科ピアノ専攻を卒業し、この4月ピアノとトロンボーンで新人演奏会に出演し、現在保育園で働いていらっしゃる、菜葉さんの岸良ファミリー。曲目は、ラッパストロンボーン、ダウンバイザリバーサイドと言った曲からホールニューワールド、となりのトトロ、ドレミと誰か知っているものまで計7曲。子ども達も職員も超一流の音色にうっとり。普段落ち着きのない子ども、ビックリするほどじっと静かに聞き入っていました。また、途中質問コーナーでは、音楽にまつわる質問から楽器の値段、開城さんと路子さんの馴れ初めなど笑いも誘う場面も。入学、進級する子のお祝いの会に、来園頂き、普段と違った心と穏やかな一時、有難うございました。

事務長 是枝満秋



4/1・2 新高校生会



4月1・2日、新たに高校生となった9人の児童とともに、鴨川青少年自然の家にて1泊2日の新高校生会を実施しました。自分たちの将来を考えるプログラムや、子山ホームでの自分たちの生活を、自分たちの考えのもと、よりよくするための話し合いをしました。自分たちの考えを言葉にして主張し、自らの意志によって施設での生活をより良いものにしていく。彼らが社会に出て、自分の生活を守るために考え行動することを合宿の中で伝えていきます。

また、ゲストとして卒業後も彼らをサポートしてくれるソニー生命の方々や、千葉市の弁護士である安井氏、社会的養護下にあった若者の支援をしてくれているCANS（千葉アフターケアネットワークステーション）を迎え、退所後の支援者との繋がりも作れる場となりました。

1泊2日の短い期間とはいえ、普段なかなか共有できない高校生同士の時間や、職員とのコミュニケーションの時間を作ることが出来て、とても実り多い2日間となりました。

職業児童員 池口豊



3/9 南総サッカー大会

3月9日 館山航空基地内のサッカーグラウンドにて、千葉県の子童福祉施設が集まり、南総サッカー大会が開催されました。子山ホームからは小学生A・Bチームと、中学生職員チームの計3チームが出場しました。今回はW優勝を果たしている子山ホーム。2022年のワールドカップに触発され、子山ホームの園庭では毎日のようにミニサッカーに興じてきました。遊びとはいえ子どもたちはみるみる実力を上げ、今年も万全の仕上がりで臨みました。

いざ蓋をあけてみると、小学生Aチームと中学生チームとも順当に勝ち上がり（Bチームは一勝しました）、両者決勝進出。圧倒的な内容で勝ち上がってきた小学生Aチームの優勝は固いとタカをくくっていたらなんと1対0の完封負け。

そして中学生チームはというと、2対2のままPK戦に突入。キーパーの卒園生も大奮闘。最後のキッカーである職員（筆者）がここでPKを失敗し惜しくも準優勝。というわけで、今回はW準優勝という結果になりました。

施設間の小さな規模の大会とはいえ、子どもたちは勝てば喜び、負ければ悔しがり、試合の中でも一言一憂。普段はまったりのない子どもたちも、この日は一致団結。様々な姿を見せてくれた一日でした。

職業児童員 池口豊



様々な企業の方々から子どもへの経験をさせるためいろいろなイベントをしてもらっています！今回は山に登ってタケノコを掘ったり収穫したタケノコで味噌汁を作ったりしました！

タケノコ4本見つけた。2本掘ってホームに持って帰って、天ぷらと辛いやつを作った。食べておいしかった。
小3 A・A



4-14

ASHINAGAプロジェクト



タケノコ掘ったのが楽しかった。ボランティアの人と一緒に遊べて楽しかった。
小3 H・K

タケノコが全然取れなかったけど楽しかったです。その次に山の中に入ってゴミを集めて捨てました。楽しかったです。
小6 K・K



あしながプロジェクトに初めて参加しました。山に登って高くて怖かった。タケノコ探したけど見つからなかった。草を火で燃やした煙が苦手だった。タケノコの味噌汁がおいしかった。
小5 Y・M

火を燃やしてファイヤーした。防空壕の中に入って探検した。何かの骨があった。人間の骨だったと思う。タケノコ見つけられた。
小5 Y・S





子山ホームで働き3年目に入り、今まで
はひよこルームでの日勤として幼児さんや洗
濯物などと主にお仕事をしました。今年度か
らは交代保育士として、新しいことにチャレ
ンジをしようと今少しずつ頑張っております。
覚えることがたくさんあってまだまだです
が、研修期間中に各ホームでのやり方を覚
え、担当保育士さんの力に少しでもなれるよ
うに子山ホームの一員として頑張りたいと思
います。これからもよろしくお願ひします。

渡邊 二知子

今年から保育士として入職しました。幼少期から子どもが
好きで保育士になるのが夢でした。子どもたちと関わる仕事
に就きたいと思い専門学校に通い、専門学校で児童養護施設
という施設があることを知りました。実習では、子ども達の
実際の様子や勉強だけでは分からない生活のことを学ぶこと
ができました。子山ホームの子ども達は元気いっぱい子
ども達の明るい姿、職員さんの優しい所、アットホームなと
ころに惹かれ子山ホームに入職しました。

趣味は旅行(思い出作り)です。
1年間を通して様々な行事があると
聞き、どこに行くのか・何をす
るのか楽しみです。子ども達や職員
と素敵な思い出を作れるようにし
たいです。

まだまだ分からないことだらけ
ですが、努力し、頼られるような
保育士になれるよう頑張ってい
きますのでよろしくお願ひします。

小澤 ころろ



令和6年度
新人

子山ホームバザーですが、今秋開催す
る予定で準備してまいります。10月を
予定しております。会場は子山ホームで
の開催となり、本バザーはホームを巣立
つ子どもの自立支援に充てることを目的
としております。皆様のご来場心よりお
待ちしております。なお、引き続きご寄
付は常時承っておりますのでご協力の程、
宜しくお願ひ致します。

お問い合わせ

子山ホーム ☎ 0470 - 62 - 232

お知らせ



この度、子山ホーム
に非常勤としてお世話
になる、小口優紀(ぐっ
さん)と申します。現
在は国際武道大学で教
職を履修して、将
来は体育教師になり、
目指せGTKを掲げています！私は子どもと職員と言う
関係性よりも友達といったスタンスで関わっていき
たいと思っております。そうでなければ子ども達と面と
向かって話が出来ないと思っているからです！ちょっ
と風変わりな男ですが、温かい目で見守っていただけ
れば幸いです！どうぞよろしくお願ひいたします！



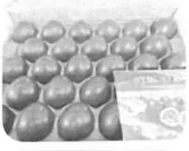
小口 優紀

令和5年度退職職員 5月末日 秋山沙耶さん

12月末日 佐藤天音さん 皆さん大変お世話になりました。

寄付

皆様からの温かいご支援に心より感謝申し上げます！



DASKA & DESIREE 様
Yuki 様
いなば食品株式会社様
カーブス様
一般財団法人篠原欣子記念財団様
株式会社チュチュアンナ様
館山の左草様
金城様&山武野菜ネットワーク様
九十九里いすみいちご園
秀吉農園様
芝山町の農業を営む方
松ヶ谷様
松崎様
釣ヶ崎グランピングリゾートの
オーナー様
釣ヶ崎グランピングリゾートの
スタッフ様
東京都中央区の松崎様
那須記念財団様
麻生様
茂原の市原様



●チャリティーコーナー

敬称略、順不同 (令和6年2月24日～令和6年5月31日)

個人			団体	
藍野 悦子	麻莉子	テスタ	子山ホーム後援会	株式会社 徳倉
松崎 宣哉	Yuki	巨人の星	大美屋	NPO 法人 子どもの未来を創る会
渡辺 弓子	山田あきこ	浅野	株式会社 Daska & Desiree	子ども会
吉田 宏夫	宇野 亜美	松崎	釣々崎グランピングリゾート	那須記念財団
石井 淳子	麻生	武宮三千雄	株式会社チュチュアンナ	さんむ野菜ネットワーク
熊井 洋子	椎名 真弓	坂東きみ子	いなば食品株式会社	ChouChou
中村	服部 路代	徳倉 基宏	ハッピードーナッツ	株式会社シズキ
菅谷 陽二	藍野 常司	市原 浩一	一般財団法人篠原欣子記念財団	大原更生保護女性会
白井	左草 哲	木本 秀吉	みのりの会	一般財団法人日本児童養護施設財団
吉田 功	中西 昭満	鈴木 昭子	せきとく	カープス
長谷川政二	石島 大輔	松ヶ谷 隆	ソニー生命	
金城	ゆゆっぺ	和泉 伸治		
佐藤真由美	長生のびんたろう	出島 康人		

ボランティアの方々 (敬称略) ※令和5年10月13日から令和6年2月23日までの間で活動していただいた方々です。

- ・ NPO 法人ブリッジフォースマイル
- ・ NPO 法人アニマルセラピー with ワン
- ・ NPO 法人子ども劇場の皆様
- ・ いすみ市生涯大学OB：みのり会
- ・ 読み聞かせ：更生保護女性会
- ・ 床屋：ヘヤーサロンヤノ
- 子どもとの関わり
- ・ 平手牧師
- ・ 東京芸大DOORプロジェクトの皆様

◆◆◆ 令和6年度後援会名簿 ◆◆◆

敬称略、順不同 (令和6年3月19日～令和6年5月26日)

梶永 光洋	高橋 昇	黒木 秀子	白川雄一郎	萩原 博	マームジャパン(株)	タカナシ防水工房
遠藤 了義	井上 隆夫	美野田哲夫	新山ふじ子	小安 和夫	大美屋菓子舗	(株)東昭建設
小宮山弘子	木村とし子	安井 利雄	土田 修二	小林 久高	(株)佐野屋呉服店	斉藤クリニック
中尾 清崇	梶 哲夫	井爪よし子	伊藤 保子		平建設(株)	(有)インパルス
平野 一隆	二神 成尊	渡辺 俊夫	山田 康弘		外房サービス(有)	吉野新聞上総東店
坂本 忠彦	小出 清	長谷川政二	森口ますみ		モコさんち	生活クラブ
松井 秀文	小出 典子	石井 晴幸	遠藤 隆		小羊保育園	生活共同組合
高野 昌孝	佐藤 光子	藤巻 郁雄	遠藤いづみ		(有)港和防災設備	(株)なのはな
野村 嘉弘	君塚かよ子	神定 洋子	土屋由美子		(株)土屋鍾文堂	成田国際専門学校
白井 喜治	田中 英子	松崎 宣哉	高梨 勇太		(医)謙聖会吉田外科内科	(有)上総化学研究所
白井 茂子	小倉 幸弘	矢野登司弘	浦 恭子		天徳寺	
稲葉 浩運	川名 正一	中村 明央	斎藤 太一		(有)キミヅカ	
鈴木 伸一	三上 雄二	浅香 良太	斎藤 正敏		白石管工事(株)	
宮野 郁子	白石 健司	浅香 正子	高山 義則		(株)丸昇建設	
新田 純子	市原 一明	庄司 光康	庄司 敦		渡辺自動車工場	
左草 哲	麻生 剛	浮 節子	小林 順子		(株)房給	
出島 康人	渡辺 正徳	浅野 功嗣	吉野 正行		庄司米酒店	
斎藤美恵子	黒木 春郎	山本 泰子	佐伯 素子		(株)房総・総合環境センター	
					千葉ダルク	

※上記の名簿は令和6年3月19日～令和6年5月26日までに納入された方で、それ以降、納入された方は記載されていません。
 ※高額のご寄附の場合は、同封の振り込み用紙では取り扱えなくなります。その際は、お手数ですが子山ホームまで連絡を頂きたいと思います。
 ※後援会名簿にお名前掲載漏れがありましたら、何卒ご容赦ください。

子山ホームだより 第95号
 発行日：令和6年6月21日
 社会福祉法人
 チルドレンス・パラダイス
 児童養護施設 子山ホーム
 千葉県いすみ市深堀685番地
 TEL 0470-62-2325
 FAX 0470-62-8828
 Eメール info@h-koyama.or.jp
 http://www.h-koyama.or.jp/

▽編集後記△
 皆様こんにちは、この度18年目にして子山ホームだよりを携わることになりました。5年前まで寛美と申します。5年前までみれホームの担当をしておりました。送別会のところでお手紙を記載していますが、幼児の時から見ていた子が卒業していききました。4月からゲームセンターでお仕事して先日までキと接客している姿を見て、とても嬉しく感じました。心配することがいろいろありました。が、しっかりと成長してくれていて、ウルウルしてしまいました。と、同時に私も頑張らなくてはと元気を貰いました。子どもが頑張っている姿や笑顔を見て元気を貰えますよね。ホームだよりを通して皆様が元気を貰えるようなものを作れるよう頑張りたいと思います。よろしくお願致します。
 保育士 齋藤寛美

※今後「子山ホームだより」の送付は遠慮したいという方がいらっしゃいましたら、遠慮なく子山ホームまでご連絡ください。